

新春のごあいさつ



理事 日野峻栄

平成6年の新春を迎え、謹んでお祝いを申し上げますとともに、皆様のご健勝を心よりお慶び申し上げます。昨年中は、当センターに対し格別のご高配をたまり誠実ありがとうございました。衷心より厚く御礼申し上げます。

当センターも、昭和62年の設立以来6年余になります。その間、安全でうるおいのある水辺づくりをめざして、皆様の強力なご支援のもと、職員一同頑張ってきました。おかげさまで一定の成果をあげることができたと確信いたしております。これもひとえに皆様方のご指導、ご支援の賜物であり、ここに深く感謝申し上げます。

当センターの設立当時、私は建設省河川局に在職しておりました関係上、およばずながら設立のお手伝いをさせていただきましたが、その後も、関東地方建設局、河川局、四国地方建設局とさまざまな職場で、当センターをはじめ関係の皆様方に幅広くご指導、ご支援をいただいております。たまたま昨年、ご縁があって当センターの一員となって、内部から水辺に関する種々の業務を見ておきますと、振り返ってこの6年間に当センターもずいぶん充実してきたと感じました。しかし、一方では、当然のことながら、まだまだやらなければならないことが山積していることもわかりました。

もう10年以上も前になりますが、国土開発技術研究センターに出向していましたとき、寺田部長（現当センター理事長）とご一緒に世界の有名な河川のいくつかを駆け足で見回ったことがあります。パリのセヌ川、ロンドンのテムズ川などを見たとき、2つのことが強く印象に残ったことを思い出します。

一つは、治水上の問題として、これらの河川は自然の地形から掘込み河川となっておりますが、わが国のほとんどの大都市が沖積平野の上に発展し、堤防によって洪水から守られているのと比較して、随分と安全であると感じたことであります。わが国でも、街の地盤の地上げをし、掘込み河川のような形に少しでも近づけられないかと考えておりました。これが、その後、スーパー堤防となって実現化し、いまでは当センターの重要な業務の一つにもなっていることを考えると、感慨深いものがあります。

もう一つは、景観についてであります。これらヨーロッパの河川の河岸は、自然石ではありますが石積み

であるにもかかわらず、なぜか、すごく景観が良いことであります。そこには、大きな樹木が街路樹のようにたくさん植えられており、川と街の景観づくりに大きく貢献していることがわかりました。これは、掘込み河川や、仮に築堤河川であってもスーパー堤防化されていけば、河岸に植樹できるわけであり、今後の景観づくりに大いに参考になると感じたものであります。

わが国も、戦後半世紀近くが経ち、終戦直後の復興の時代から経済的に大きく発展し、国民生活も飛躍的に向上しましたが、一方では国民一人一人の真の豊かさが求められるようになってきました。

河川の整備についても、早く洪水から国民の生命と財産を守り、経済発展にも大いに寄与できるようにするため、ともかく効率よく水害をなくすことに重点がおかれてきました。その結果、水害の減少には多大の効果があつたものの、コンクリート張り景観が悪くなったとか、生物が生息しにくくなったとか、水辺に近づけられなくなったとかの弊害も出てきました。

このため、最近では、水害のない安全な川づくりはもちろんのこと、生物にやさしい自然豊かな川づくり、美しい景観の川づくり、魚がたくさんぼる川づくり、快適に住みよい環境づくり、まちづくりと一体になった川づくり、清らかで豊かな水環境づくりなど、検討し取り入れていかなければならない数多くの課題が出てきました。これは単に、河川の付加価値を高めるということだけでなく、むしろ、河川が本来持っているべき、あるべき姿に変え、創りだしていこうということでもあるのです。

これらの数多くの課題について、一つ一つ着実に解決していくことはもちろんのこと、それぞれの地域の歴史や文化や伝統にマッチした川づくりをいかにやっていくか、その地域の特色をどう出していくかなど、幅広い知見や豊かな感性も不可欠になってきております。今年もそういう数多くの課題に挑戦しながら、さらにより良い水辺づくりのために頑張っていきたいと思っておりますので、どうかよろしくご指導、ご鞭撻の程をお願い申し上げます。

今年が皆様方にとって、より良い年となりますようお祈りし、新春のごあいさつとさせていただきます。